

## 芸術美術

講師	内藤修子	実施時期 単位数	第1学年後期 1単位 (20時間)	実務経験	—
一般目標 (GIO)	表現や鑑賞の幅広い活動を通し、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育て、感性を豊かにして、豊かな情操を養う。				
授業概要	人間にとって最も大切なものはなにか、それを問いかけながら、美術を学び、生きるエネルギーの根源を美術表現という地平から見つめ返してみる。描くことや造形を生き生きと表現する内容にする。				
学習方法	美術講義、野外研修、長崎の伝統や地域文化の美術に親しむ。				
成績評価の方法	作品提出評価、出席評価80%、小テスト20%				
教科書	適宜配付する				
履修上の注意	美術を学ぶことは鑑賞や表現を主に導入していく事。個人評価だけが重要ではない。作品との向き合い、材料を手にした時から出来上がるまでの、時間と空間、完成までの喜びの経過であり、心の交流や友との学びを主体として、美術を楽しむことである。身体と心、手で感じて、触れ合うことを理解していく。				
参考書	岡本太郎。草間彌生、マルセル・デュシャン、アンディ・ウォーホル・他の現代美術作家画集 安藤忠雄他の資料(光村図書美術Ⅲ)美と創作シリーズ 立体造形を学ぶ 京都造形芸術大学 アヴァン・ギャング中国現代アート 牧陽一 木魂社 現代美術の断面 京都国際芸術センター 菊畑茂久馬とく物>語るオブジェ 福岡県立美術館編 なぜこれがアートなの? アメリカアレンス 川村美術館				
実務経験のある教員 (概要、科目との関連性)					

### 授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	「美術史・美術鑑賞」 (印象派から現代美術まで)	日本美術世界の美術を導入して述べ、日本の美術文化が世界にもたらした説明をする。
2	「鑑賞と表現」(作る、制作することへの思い)。コラージュ作品をつくる。	美術鑑賞やコラージュ作品の制作が心を豊かにすることを感じる。
3	「多視点でものをとらえる」鳥瞰図を描く。 自分の部屋を描いてみる。	鳥目線で空中から見ることで、多方面から自身を見る工夫に導く。
4	自分の住む町、建物、路地を見てみよう。 風景を見てみよう。	地域を知る、自身の街に親しむことで地域の方や友と美術を共有する。
5	「心象の世界」(絵画には感情を沈め精神を慰めるものがある) 表現をはじめてみよう。喜びや幻想を描いてみよう。	最も深い美術学習での目標は、社会に受け入れられる人間力を養う。
6	「現代美術との触れ合い」ポップアートから学ぶもの。平面から立体へ、そして空間美術へ。立体作品を制作。	今の時代は最も芸術が必要であることをしり、共に表現活動を促す。
7	「立体造形との触れ合い」生活の中のモダンアート。街の彫刻を学ぶ。	まちに在る建物や彫刻、絵画を知り、美術を学び、美術に触れる。
8	「生活とデザイン」(伝統工芸・ファッション・デザイン)に興味を持つ。	あらゆるものに美は存在することを感じる。豊かな美的社会人に育成し応える。
9	日本の美術家を学ぶ。 (草間彌生・岡本太郎)	他者に伝える表現能力及び他者と共に考える活動力を身につけていく。
10	「人物を描く」自画像を描く。自画像を描く意味を理解して、描いてみる。	自分を描く行為は他者を大切にしている行為に繋がり、自分の心の表現である。